令和4年度　北見カトリック学園　北見マリア幼稚園　学校評価

1.教育目標

・神様の愛を信じ、のびのび育つ子。
・自分の事は自分でできる独立心のある子。
・友だちと仲良くし、楽しく遊べる子。
・手足を充分に使い活発に遊ぶたくましい子。
・自分の考えを伝え、人の話をよく聞く子。
・感謝と祈りがいつでもどこでもできる子。

2. 教育目標達成に向けての令和4年度の重点

・神様から賜った個性に感謝し、お互いを認め合う心を育む。
・神様や親からの大きな愛を感じ、命を大切にする子を育てる。
・友達、教師、家族との関わりを楽しみ、信頼を寄せ豊かな人間関係を築こうとする子を育てる。

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.7	新型コロナウィルスの影響はあったが、行事などは分散・短縮で対応することにより概ね計画通り実施できた。 情報の共有、業務簡素化へ向けてICT保護者との連絡ツールアプリ「コドモン」を8月より導入、保護者からは便利になったとの意見が多く聞かれているが、職員がマスターするのに費やす時間確保が必要。 1月に自園調理給食事業を開始し、食育や食事のマナーを保育に積極的に取り入れた。
保育の充実と園児との関わり	3.8	担任と臨時職員との連携が円滑で保育の充実が図れた。特に特別支援児への対応。 全職員が共通理解の上でクラス以外の全園児一人ひとりと関わる意識が浸透し、保育の充実と共に基本的生活習慣が身についてきた。 年度末に実施した保護者アンケートからも良好な関わりを持てているとの評価があった。
安全管理	3.8	全園児での一斉訓練(火災・地震)では指示に集中し行動することができていた。 不審者対策においては、職員実技訓練を計画していたが、コロナにより講習不可となった。次年度再度計画を立て、動画での研修なども活用して職員の対策意識を高める。 園庭大型遊具老朽化の為、基礎部分の整地、鋪部分の補修、グランドマットの設置、危険遊具の撤去を行った。安全な遊具の使い方の徹底、施設の安全対策を職員で共有した。
地域の幼児教育機関としての役割	3.6	コロナウィルスの影響により、子育て支援事業未就園児教室の活動中止が度々あり利用者が減少。次年度は子育て相談を充実させ、核家族、特別支援児を育てる保護者のネットワーク的役割を担えるように計画する。 例年行っていた老人施設訪問や小学校との交流事業も中止となったが、中学生の職場体験を3年ぶりに実施できた。地域の公共商業施設への職場訪問ができたことは、公共のルールを学び、園の教育保育を周知され良い機会となった。園児や保護者が地域の方と自然に挨拶を交わせる関係を築き、園の活動内容を定期的に広報していく。
教員の資質・能力向上	3.4	准職員、補助職員の資質向上はなかなか研修時間確保が難しく課題だが、ケース会議により支援の手立てをより具体化できた。 園内、姉妹園との保育交流を行い、保育環境の整備、保育導入の準備、園児への指導言葉がけなどを学ぶことができたが、職員が日々の保育に追われ、自らの研修参加への意欲が低い。
保護者との連携	3.8	保護者への連絡ツール「コドモン」アプリを導入。保護者からは便利になったとの意見が多く移行への混乱は無かったが、アプリでの連絡に偏り、怪我などの際は対話で伝えることが安心信頼関係を保つことを全家庭個人面談を行い、成長を伝え今後の課題を確認できたことは良かった。保護者対応が不十分な職員に対しては指導を継続して行った。特に特別支援の保護者対応には配慮を要したため、園長、主任が仲介し、行事等では事前に参加方法など丁寧に伝え、成長を分かち合うことができた。

※結果の表示方法　4　十分達成されている　3　やや達成されている　2　あまり達成されていない　1　取り組まれていない

4. 令和4年度の総評

結果	理由
3.7	・コロナウィルス感染により2日間休園措置を取るなどを行った、今年度初めて施設訪問を実施し、地域との交流が出来たことは意味があり職員の意識に変化があった年だった。 ・安全管理については、今年度も月1回の防災訓練を行い、災害時の行動をイメージできた。更に、防災DVDやイラストパネルの教材を利用することにより、意識と理解が高まった。 ・子育て支援センターきらり通所児は、保護者の希望に沿った支援、導きが出来ているとの評価があった。 ・支援園児の保護者との対応連携は充実傾向、他の保護者からの特別支援統合保育への理解も徐々に広まっている。 ・職員の研修参加への意欲が薄く、保育がマンネリ化傾向にある。

・統合保育(障がい児保育)の理解を広め、他面的な子育て支援ができる園として計画をする。
・特別支援児と家庭との信頼関係を築き、自己肯定感を持てるよう支援する。
・職員個々の資質を向上させ責任と喜びを持って教育・保育に従事し、お互いを認め合い高め合える職員関係をつくる。
・絵画、モンテッソーリ、体育活動、特別支援等の研修時間の確保。特に体力作りに力を入れたい。
・社会事情に関心を持つことや異業種交流など、教育・保育に活かせる機会を得る。
・年休(正規職員、准職員、補助職員)、休日、補助職員の急な休み等に対応する体制の工夫。
・クラス、年齢別、1号児預かり、2号児全ての保育に全職員が全園児に関わる意識を持つ。